

令和3年度事業報告書



公益財団法人 帆船日本丸記念財団

目 次

1	令和3年度事業概観等	2
2	帆船日本丸事業	3
3	横浜みなと博物館事業	6
4	みなとの賑わい創出事業	9
5	緑地管理・活用及び研修施設事業.....	10
6	集客増に向けた重点取組	12
7	組織運営の質的向上に向けた取組.....	16
8	事業一覧表	18

1 令和3年度事業概観等

(1) 施設概要

- ア 施設名
日本丸メモリアルパーク
- イ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- ウ 対象施設等
 - (ア) 帆船日本丸（国指定重要文化財）
総トン数 2,278t
 - (イ) 横浜みなと博物館
7,155.31 m²
 - (ウ) 研修施設
873 m²
 - (エ) 緑地
38,100 m²
 - (オ) その他
タワー4棟

(2) 施設管理者

- ア 共同事業体
帆船日本丸記念財団・JTBコミュニケーションデザイン共同事業体
- イ 代表団体
公益財団法人 帆船日本丸記念財団
- ウ 代表者
理事長 青木 治
- エ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- オ 設立
昭和59年10月1日
- カ 指定期間
平成28年4月1日から令和4年3月31日まで（第3期）

(3) 事業概観

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、第3期指定管理期間が1年間延長された年となりました。

4月は、3月に解除された「緊急事態宣言」の経過措置期間でしたが、すぐに再拡大となり、4月下旬から「まん延防止等重点措置」が実施されました。8月上旬には再び「緊急事態宣言」が発令され、ほぼ1年間、令和2年

度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組みながらの開館となりました。

6月からは、横浜市による横浜みなと博物館常設展示等のリニューアル工事が開始されました。平成21年にオープンして以来のリニューアルであり、当財団として展示内容の助言や提案等を行いました。

併せて、日本丸メモリアルパーク全域での改修工事も行われ、日本丸交差点入口には、新たに案内サインが設置されるなどパーク全体が一新されました。

同月には、令和4年4月からの第4期指定管理の応募手続きが始まり、審査の結果、12月に財団単独での指定を受けることができました。



新たに設置された案内サイン（左）

このような状況の中、当初計画していた事業は、予定どおり進めることが出来ないものもありましたが、事業執行の際には無駄な経費を抑え、効率的な事業展開が出来るよう、職員一丸となって取り組んだ結果、3年度主要目標において、全項目で目標を達成することができました。

3年度目標項目	実績 (2年度実績)	対2年度比	目標
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	26,520人 (25,079人)	5.7%増	19,000人
日本丸メモリアルパーク利用者数	322,310人 (428,341人)	24.8%減	260,000人
小・中・高等学校の来校数	204校 (130校)	56.9%増	34校
お客様満足度	99.2% (99.7%)	0.5ポイント減	97%以上
効率的な財政運営・人材育成及び風通しの良い職場作り	推進	—	推進

2 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢92歳となりました。国指定重要文化財として、今後末永く保存するため、職員による船体の整備、美観保持作業及び帆装艀装の整備を日々継続しました。

保存事業においては、著しい経年劣化が見られたメインマスト最上部の木製ロイヤルヤード(Royal Yard)を更新しました。更新したヤードには、令和2年度に交換したフォアマストのローゲルンヤード(Lower Topgallant Yard)の一部を転用しました。同ヤードは、昭和27年(1952年)の帆装艤装復旧当時のもので、歴史的価値の高いものであることから、横浜市及び文化庁と協議した上で実行しました。

公開事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、帆船日本丸を活用した参加・体験型事業の中止や、内容の変更を行いました。ガイドボランティアによる船内案内は、すべて中止としました。

青少年錬成事業においては、通常の海洋教室に加え、令和2年度に中止された「横浜こどもマリンスクール」が復活し、同事業の支援を行いました。

これらに加え、各種講座等の開催や、船内展示の定期的な内容更新を行い、リピーターの確保に努めました。

(1) 保存事業

国指定重要文化財帆船日本丸の美しい姿を末永く保存するため、次の整備を実施しました。

ア 日常保守点検

- (ア) 乗船者見学通路・公開区域の安全点検、整備、美観保持
- (イ) 船体鋼材の発錆部整備及び船内真ちゅう磨き
- (ウ) マスト、ヤードその他帆装艤装の点検・整備
- (エ) 船体木部の点検・整備

イ 災害防止

- (ア) 乗船者及び甲板整備協力者の安全確保
- (イ) 帆船日本丸災害発生時対応フローチャート作成
(令和3年10月、関東運輸局長に承認された「帆船日本丸災害防止計画(改訂版)」に掲載)
- (ウ) 船内防災センターにおける火災、浸水、地震及び不法侵入者等に備えた24時間体制の集中監視

ウ 年次船体整備点検・整備 中間検査受検工事等

エ 木製ヤード部分塗装(本船作業)

オ ステイ(マスト間ワイヤ支索)塗装(本船作業)

カ メインマスト ロイヤルヤード(Royal Yard)更新工事(外部委託)

(2) 公開事業

帆船日本丸船内を年間283日公開しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は実施できなかった展帆も、令和3年度から

は参加ボランティア人数の制限や適時消毒などの感染対策を行いながら再開しました。天候不順や緊急事態宣言発令による中止もありましたが、横浜市から依頼された撮影のための総帆展帆を含み、計8回の展帆を実施しました。

満船飾は14回実施し、展帆と併せて普段は見ることのできない帆船日本丸の美しい姿をご覧いただきました。

夏休み期間中には、「子ども向け船の講座」や「ロープ作成体験」を企画しましたが、緊急事態宣言発令などの理由から中止となりました。

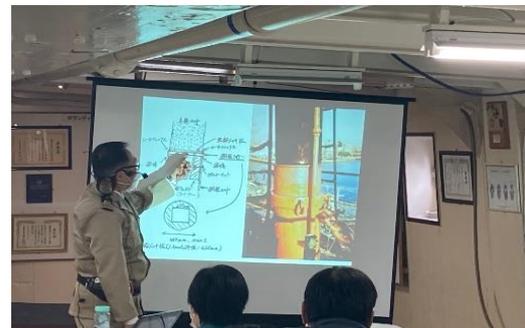
11月7日には、令和2年度に引き続き大人向け船の講座として、船長による「トールシップの帆装艀装③ジガーマスト (Jigger Mast) の構造」を開催しました。同講座では、平成12年(2000年)に実施したジガー木製ゲルンマスト (Jigger Topgallant Mast) 更新工事の記録を用いて解説しました。

2月初旬から、日本丸メモリアルパーク内において、昭和54年(1979年)から約42年間取り付けられていたメイン・ロイヤルヤード (Royal Yard) を展示・公開しました。

これらの活動を通して、市民の皆様には帆船日本丸から得られる知識や経験を共有していただき、帆船日本丸の100年保存に対する理解を得られるように努めました。



展帆と満船飾



大人向け「船の講座」

(3) 青少年錬成事業

帆船日本丸における錬成事業(海洋教室等)は、訓練施設において様々な体験型訓練と団体生活を行うことにより、時間厳守、公德心、体力・精神力の向上、注意力、友愛、協調性、責任感及び積極性を習得してもらうとともに、海・船・港に関する理解と知識の増進を図ることを目的としています。

令和3年度は19回の海洋教室(半日・1日コース)を実施し、海事思想の普及を図りました。実施に当たっては、実施団体と事前に訓練プログラムを調整し、可能な限り参加者の希望に沿ったプログラムを実施できるよう努めました。

その他、35年以上に渡り実施されてきた「横浜こどもマリンスクール」の事業を支援しました。



甲板磨き



バウスプリット渡し



マリンスクール開校式

3 横浜みなと博物館事業

令和3年度は6月7日から休館し、横浜市が実施したリニューアル工事に協力しました。当財団としては、本格的な工事開始前の準備段階において、常設展示資料や物品の移動等を実施するとともに、横浜市に対して博物館内の設備や運用についての助言、提案を行いました。

また、展示計画や制作の段階では、展示内容の助言や提案をはじめ、横浜市からの要請に応じ、必要な画像や資料の提供、展示グラフィックパネル等の校正作業を行いました。

休館に伴い、予定していた特別展示事業及び教育活動事業の多くを中止としました。併せて、博物館ボランティアの活動も休止としました。

このような状況の中、特別展示事業では、企画展「日本の練習船～海の上の学校」を令和2年度から継続実施しました。1月には、帆船日本丸の進水92年を祝い、「祝 帆船日本丸進水92年 なつかしポスター展示」を実施しました。



企画展「日本の練習船～海の上の学校」
展示風景



「祝 帆船日本丸進水92年 なつかしポスター展示」
展示風景

柳原良平アートミュージアム事業では、特集展示「帆船日本丸」を令和2年度から継続実施するとともに、令和3年に生誕90周年を迎えた柳原良平の記念展示「柳原良平半生記」を開催しました。

その他、年度末には、横浜みなと博物館の浸水対策として、横浜市が大黒ふ頭に新たに設置した収蔵施設に多数の資料等を移動するとともに、災害に備えて、館内収蔵庫、書庫等の大規模な整理を行いました。



柳原良平アートミュージアム特集展示
「帆船日本丸」 展示風景



柳原良平生誕 90 周年記念展示
「柳原良平半生記」 展示風景

(1) 常設展示事業

常設展示室及びライブラリーは、令和 2 年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、6 月 6 日まで公開しました。

展示案内ボランティアによる展示案内及び説明は、新型コロナウイルス感染症拡大防止及びリニューアル工事のため、令和 2 年度に引き続き中止としました。

展示品のメンテナンスは、職員及びスタッフによる日常の点検・保守の際に不具合の修理を行い、良好な状態で見学できるよう努めるとともに、スタッフによる消毒作業など新型コロナウイルス感染症拡大の防止に努めました。

(2) 特別展示事業

令和 2 年度から継続して、海運業・水産業を担う人材育成の場として大きな期待が寄せられている、練習船・実習船の役割について紹介する企画展「日本の練習船～海の上の学校」を開催しました。

博物館ロビーでは、「祝 帆船日本丸進水92年 なつかしポスター展示」を実施し、帆船日本丸が横浜に係留保存され、公開を始めたころの大型ポスターを展示しました。

なお、夏に予定していた「港と船の所蔵品展」(仮称)は、リニューアル工事のため中止としました。

展 覧 会 名	会 期
海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞記念・帆船日本丸進水91周年記念企画展 「日本の練習船～海の上の学校」	2月27日～5月9日
祝 帆船日本丸進水92年 なつかしポスター展示	1月23日～ 27日

(3) 柳原良平アートミュージアム事業

柳原良平アートミュージアムでは、令和 2 年度から継続して、帆船日本丸進水91周年に合わせ、横浜誘致に尽力した柳原良平が描いた、帆船日本丸の作品を展示した特集展示「帆船日本丸」を実施しました。当初予定していた

会期中のほとんどが緊急事態宣言発令期間と重なったため、より多くのお客様に御覧いただけるよう、会期を延長しました。

8月に柳原良平が生誕90周年を迎えるに当たり、記念事業も検討しましたが、リニューアル工事による休館が決まったため、ゴールデンウィークにあわせて、生誕90周年記念展示「柳原良平半生記」を博物館中1階で開催しました。初公開となる美術大学生時代のスケッチブックや、トリスウイスキーの新聞広告版下、『柳原良平 船旅の絵本』原画等を展示し、柳原良平が携わった仕事について紹介しました。

なお、夏に予定していたオープン3周年記念特集展示「花と木と船と」（仮称）は、リニューアル工事のため中止としました。

展 覧 会 名	会 期
海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞記念・帆船日本丸進水91周年記念 「帆船日本丸」	12月22日～5月9日 ※会期延長
柳原良平生誕90周年記念展示「柳原良平半生記」	4月29日～6月6日

(4) 教育普及事業

当初予定していた各種教育普及活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止及びリニューアル工事のため、ほぼすべての事業を中止としました。

リニューアル工事による休館前には、毎週土曜日、入館者向けに、キッズのためのクイズラリーを新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して実施し、来館された方に楽しい時間を過ごしていただけるよう努めました。



Web サイト「おうちで船の工作にチャレンジ！」

ステイホーム中の子どもたちに船に親しんでもらうために、Web サイトで工作教室のコンテンツを発信する「おうちで船の工作にチャレンジ！」を継続して公開しました。

(5) 所蔵品の適切な管理

令和2年度に続き、さまざまな災害から所蔵品を守るための取組を行いました。具体的には、高潮や津波発生時の資料避難マニュアルの作成及び避難訓練等を行いました。

年度末には、博物館の浸水対策として横浜市が大黒ふ頭に新たに設置した収蔵施設へ多数の資料等を移動しました。これにあわせて、収蔵庫・書庫内の清掃・整理及び重要資料の高所への移動、収蔵資料の保管状態の確認及び改善作



資料避難ルート確認訓練

業等を実施しました。

さらに、博物館収蔵庫内に保管している国指定重要文化財帆船日本丸附（つげたり）資料（532点）の一般公開に向けて、文化庁及び横浜市等関係者と資料の整理及び修復を進めるための協議及び準備作業を行いました。

(6) その他

ア ボランティアへの対応

活動休止となった展示案内ボランティア及び教育普及ボランティアに対し、3か月に1回程度の頻度で博物館の活動や取り組みを文書でお知らせし、継続した博物館への協力を依頼しました。

イ 助成金の獲得

令和4年度以降の企画展の事業助成を受けるため、みなと博物館ネットワーク・フォーラム等3件の助成申請を行いました。

4 みなとの賑わい創出事業

(1) 水辺の事業

都心のインナーハーバーに立地する好条件を生かした、水辺に親しむ体験型事業を実施し、みなとの賑わい創出に貢献しました。

シーカヤック教室では、日本丸メモリアルパークの内水域及び自動車側水域を中心に、NPO法人横浜シーフレンズと連携し、教室を開催しました（計36回開催、延べ262人参加）。

カヌーポロ教室では、横浜市カヌー協会及びNPO法人横浜カヌー倶楽部と連携し、大人から子どもまで広い世代で参加できるよう、上達レベルを合せて教室を開催しました（計10回開催、延べ123人参加）。

なお、両教室の開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底するとともに、8月から1月の緊急事態宣言発令等の際は、両教室を中止しました。



シーカヤック教室



カヌーポロ教室

(2) パーク利用事業（イベント）

下半期には、横浜市発注によるパーク内の大規模な舗装打替え工事が着手されたため、イベント用地を十分に確保するのが困難な状況でした。そこで、横浜市と工事工程の調整を綿密に行い、市民交流やコンサートをはじめとする音楽イベントなど計 36 件開催することが出来ました。

夏には、フラダンスイベント「ALOHA♡HULA」、冬には、中小企業の情報発信を行っているスマートニッチ応援団による「さかな文化祭」を開催しました。

Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021 の「横浜ダンスパラダイス」では、多くの市民参加があり、ファミリー層に喜ばれました。



ALOHA♡HULA



大盛況のさかな文化祭

(3) ミュージアム・ショップ事業



仮設店舗によるショップ営業

横浜みなと博物館のリニューアル工事により、従来の場所での営業が出来ないため、横浜みなと博物館総合受付横に仮設店舗を設け、規模を縮小し、営業しました。

また、来館できないお客様にも商品を購入していただけるようオンラインショップを開設し、利便性の向上を図りました。

5 緑地管理・活用及び研修施設事業

(1) 緑地の維持管理・活用

ア 安全管理

パーク内の樹木に営巣を始めたカラスは、来場者にケガを負わせる危険があるとともに、巣の落下による被害を防止するため、巣作りの段階で2か所の撤去を行いました。



撤去したカラスの巣



植樹マスの段差解消

また、歩道に植えられたクスノキやサクラが大きく成長し、根元を覆う鋳鉄製植樹マスの浮き上がりは、歩行者に危険であることから、グリーンボランティアとともに段差の解消を行いました。

イ 環境管理

ドック及び水路はビニールやプラスチック片の生活ごみが浮遊し、マイクロプラスチック汚染源となることから、日常清掃に加え、ボランティアによる回収清掃を行いました。

5月から11月末までの長い期間、アリーナ側にサンパチェンスの立体花壇を設置し、多くの来場者に楽しんでいただき、SNSでも多く取り上げていただきました。



サンパチェンス

ウ 撮影

緑地や帆船日本丸をはじめとした日本丸メモリアルパーク内の魅力的な空間やさまざまな施設や設備を利用し、テレビドラマ・映画・CM・雑誌などの撮影で、合計116件の御利用をいただきました。



テレビドラマ撮影



ドキュメンタリー番組撮影

(2) 研修施設（訓練センター）の管理運営

令和3年2月からスタートした貸会議室のWebサイトでの予約については、従来のファクシミリ又はメールによる予約よりも利用者の利便性が高まったことに加え、事務処理の効率化も図られました。さらに利用しやすいシステムにするため、プログラムに多くの修正を加えました。

引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、アルコール消毒液、サーキュレーター等の備品を用意し、利用者が安心して使えるよう衛生環境を整えました。



貸会議室での消毒作業

6 集客増に向けた重点取組

主な取組は、次のとおりです。（カッコ内数字は対令和2年度比）

(1) マーケット別取組強化

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大及び横浜みなと博物館リニューアル工事の中で、コストを最小限に抑えながら、各マーケットとの接点を切らさないように、令和4年度も視野に入れ、取組みました。

ア 法人マーケット（教育旅行及び企業・団体等法人）への取組

(ア) 教育旅行マーケット

来校数 204 校（74校増）と新型コロナウイルス感染症拡大の影響はありましたが、令和2年度の状況からは改善しました。

10月から12月には、豊島区立中学校8校連合行事「横浜 うみの学習」で8校・延べ879人の先生・生徒を初めて受け入れ、入場前に一等航海士のワンポイント解説を実施しました。全校無事に終了することができ、令和4年度も5月から7月にかけて実施していただくことになりました。

JTB横浜支店の教育旅行プログラム「横浜SDGs 探究学習」に参画するための営業を実施し、令和4年度からの実施に向け、企画案策定及び販売に向けた体制構築への取組を開始しました。

併せて、公益財団法人日本修学旅行協会発行の教育旅行関連業界・団体向けの「月刊教育旅行」に、奇数月は「うみ・ふね・まち」をテーマとする学芸員執筆による「みなと横浜のお話」を寄稿し、「みなと横浜」の魅力を伝えるとともに、偶数月には帆船日本丸を主とした広告を掲載しました。なお、令和4年2月号からは、横浜みなと博物館リニューアルオープンの告知を行いました。

(イ) 企業・団体等法人マーケット

一般団体件数30件（1件減）と、ほぼ令和2年度並みで終了しました。団体誘致のための営業・渉外活動も、令和2年度同様新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、企業活動の大幅な鈍化、中止及びテレワークの導入等により行動制限を受けた中で、令和4年度以降に向けた各法人との接点の継続保持に努めました。

- a 共同事業体である（株）JTBコミュニケーションデザイン（以下：JCD）との連携

令和4年度法人向けプログラムとして帆船日本丸を利用した「リーダーシップ」プログラムの作成を開始しました。

- b 旅行会社

11月から1月には、令和2年度に引き続き横浜観光コンベンションビューロー（以下：YCVB）主管の観光需要喚起策「Find Your YOKOHAMA キャンペーン」の実施に伴い、取扱旅行会社（ポケットカルチャー社）の企画4プランに参画し、集客人数503人（245人増）・売上金額501千円（319千円増）となりました。初めて組み込んだシーカヤックプランやYOKOHAMA AIR CABIN、スカイダック、万葉倶楽部とのタイアッププランの販売が好調だったため、入館者数及び売上ともに令和2年度を大きく上回りました。

JTBの団体向け企画商品では、「JTBならではの」の「学び」のプランに参画し、取扱団体の誘致に努めましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、受け入れはありませんでした。

しかし、同社で令和4年10月から3月まで実施予定の全社地域キャンペーン「日本の旬東京 横浜」では、法人団体向け「着地型素材」として、当施設を組み込んだ商品の企画及び参画に向けた営業を実施し、結果2コースが採用となりました。

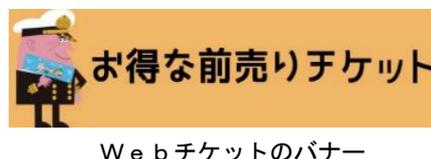
- c その他企業・団体等

7月22日から8月31日まで、海洋都市横浜うみ協議会主催のバーチャルうみ博2021へ参加し、オンラインコンテンツとして、クイズ「日本丸のコレなんだ？」を出展しました。

イ 個人マーケットへの取組

- (ア) オンライン販売（E-ticket）チャンネルへの新規取組

令和2年度から開始したE-ticket販売を、アソビュー社、楽天、JTBの計3社で継続し、3社合計で385枚、456千円（408枚減、143千円増）を販売しました。



販売枚数は大変厳しい状況でしたが、令和3年度よりシーカヤックの販売を開始したこともあり、キャッシュレスの推進及び売上増を図ることができました。

- (イ) リアル販売チャンネルへの取組

- a 旅行会社

JTBが10月から3月まで実施した個人向け商品「エンジョイ東

京 横浜」では、当施設が参画している「ぐるっとパス 2021」を組み込んで初めて展開しました。

b 法人と連携した個人向け割引入館

法人・団体との連携で、割引による入館の促進を実施し、利用人数 200 人（142 人減）・金額61千円（1 千円減）となりました。

近隣ホテルとの連携は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ホテル側からの要請もあり、設定中止となりました。

c ぐるっとパス 2021 への参画

令和 2 年度から継続し、広告の掲出、パスの販売及び利用受入を行いました。販売冊数11冊（増減なし）・利用枚数 720 枚（258 枚増）となりました。

ウ 外国人客（訪日・在日外国人客）マーケットへの取組

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大きく影響を受けたマーケットであり、プロモーションをほぼ停止しましたが、年間入館者 561 人（63人増）と若干ながら令和 2 年度を上回りました。

このような状況下ではありましたが、YCVB海外観光レップと連携して、11月に中国の微博（Weibo）への投稿を行いました。

(2) 広報・宣伝への取組ープロモーションを主体とした取組

広報宣伝関連年間総出稿数 154 件（令和 2 年度比 100 件減、令和元年度比 193 件減）と過年度比で激減をしましたが、帆船日本丸を主たる素材として新規取組や継続取組を行いました。

ア JCDとのタイアッププロモーションの実施

12月から3月に新規取組として、SNSのインフルエンサーへ依頼し、当財団の取組を Instagram で発信しました。3月には、当財団職員を対象に Instagram の勉強会を初めて開催し、フォロワー数を増やすための掲出努力を継続しています。

併せて、情報発信の素材を充実させるため、初めてプロモーション用の撮影を行うとともに、帆船日本丸の総帆展帆の写真など広報用の写真や動画を制作しました。



イ 観光情報サイト、地域誌（横浜来街観光客向け）の活用

観光情報サイトや地域誌に当財団のイベント情報等を提供し、横浜観光情報、MinatoMirai21、ヨコハマ経済新聞、タウンニュース、るるぶ横浜等に掲載されました。

ウェディングフォトのプロモーション用映像

ウ プロモーション素材の充実

横浜ロイヤルパークホテル及びムサ・ジャパンと連携して、ホテルのロスフラワーを活用したフラワースポットを初めて帆船日本丸の船内に作りました。撮影スポットとして周知するとともに、Instagramでも3か月間紹介しました。



ロスフラワーを活用したフラワースポットの紹介

エ こども向け情報発信用素材の提供

青葉区役所こども家庭支援課の子育て応援系 YouTube「なしかちゃんねる」での特集第4弾「保育士めがおに先生が行く！日本丸編！」の制作への協力依頼があり、帆船日本丸船長及び一等航海士が出演し、動画撮影・制作に全面協力しました。



青葉区役所 YouTube「なしかちゃんねる」特集第4弾「保育士めがおに先生が行く！日本丸編！」

オ オンラインツアーへの参加

新規取組として、HISと一般社団法人横浜みなとみらい21（以下：YMM）によるみなとみらい21地区を紹介する企画として、オンラインツアーの第1回目に参加しました。横浜美術館と帆船日本丸から中継し、ツアーには304人の参加がありました。



横浜みなとみらいオンラインツアー

(3) 入館料金の柔軟な対応

単館券及び小中高校生土曜特別料金設定を継続しました。博物館のリニューアル工事のため、開館が帆船日本丸のみで共通券の販売が出来ませんでした。単館券入館者数は、19,913人（9,695人増）と令和2年度を大きく上回りました。

小中高校生土曜特別料金の入館者数も、1,142人（570人増）と令和2年度を大きく上回りました。特に3月19日に開催された「さかな文化祭」が大きく影響し、イベントへ来場した小中高校生が、当日1日のみで346人となりました。

(4) インターネット等の活用

従来の紙媒体から、より多くの人へ、かつ迅速に情報を提供できる SNS を有効活用し、情報の発信に努めました。

例えば、展帆や帆船日本丸船内風景などについて Instagram と Facebook を活用して情報発信し、誘客に努めました。併せて、チケットの販売チャンネルの活用策として、令和 2 年度に開始した E-ticket を引き続きオンラインで販売しました。

7 組織運営の質的向上に向けた取組

(1) 風通しの良い職場作り

毎朝の朝礼で各担当から連絡事項の伝達、報告等を行い、職員全員で必要な情報を共有しました。毎週木曜日には管理職による業務調整会議を実施し、懸案や課題の解決を図るとともに、その会議内容を職員へ情報共有する職員ミーティングを定例開催しました。

安全衛生委員会では、職場でのヒヤリハットの事例や国等の安全衛生に関する取組について共有するとともに、夏に当財団で起きた救急搬送の事例を活かし、迅速な対応が取れるよう「救急連絡シート」制度を導入するなど、職場での職員の労働安全の課題解決に取り組みました。

その他スタッフを常駐させている警備、設備、清掃事業者と毎月 1 回安全衛生協議会を開催しました。課題等を共有することで、施設の安全な維持・管理の徹底を図っています。

(2) 各種研修会の実施・参加

集合研修の開催が困難な状況の中、当財団としてインターネット上での視聴による人権啓発研修等を実施（延べ 159 人参加）するとともに、横浜市や他団体が主催する研修会等に参加（延べ 55 人参加）しました。

新規展帆ボランティアを対象に養成訓練を実施（8 人参加）するとともに、新しくなった墜落制止用器具の取扱いに関する研修（学科及び実技）を実施（延べ 183 人参加）しました。

(3) 防災訓練の実施

10 月 6 日開催のみなとみらい 2 1 地区内の防災訓練（3 人参加）では、災害時の情報受伝達訓練に参加しました。

財団主催の訓練として、10 月 27 日及び 29 日の秋の訓練（27 人参加）では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実地訓練は実施せず、令和 3 年に改正された災害対策基本法の自治体から発令される避難指示等について学びました。

1月26日の文化財防火デーに因んだ防災訓練（25人参加）では、実際に帆船日本丸周辺から火災が発生した想定で、机上訓練を実施しました。

(4) アンケート調査（モニタリング）の実施

アンケート実施日及び回答数

令和3年11月3日から30日まで実施。回答数 127 件

なお、今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、従来のアンケート用紙へ記入する方法ではなく、オンラインによる非接触型の回答方法で実施しました。

調査結果の主な内容は次のとおりです。

ア 来場回数

2回以上来場したリピーターは、帆船日本丸が 8.3 ポイント、日本丸メモリアルパークが21ポイント、令和2年度と比べ増加しました。

今後も新型コロナウイルス感染症拡大の影響が予想されますが、引き続き、新規顧客の誘致策の強化に取り組み、来場者数の向上に努めます。

イ 来館者の期待

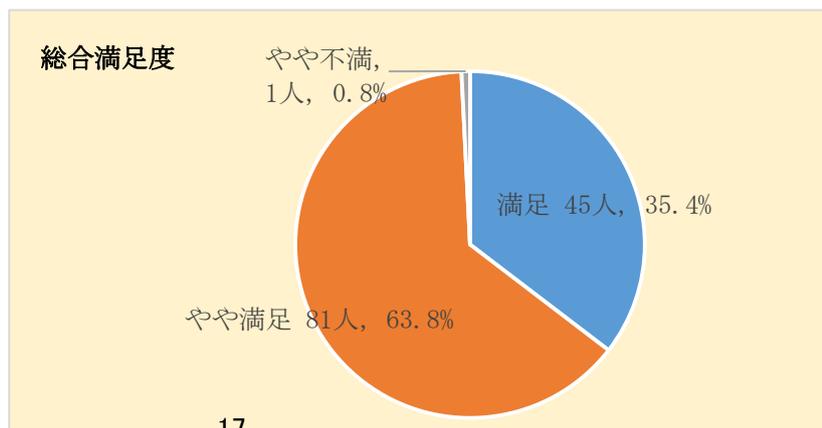
「帆船日本丸への興味」、次いで「船・港への関心」、「日本丸メモリアルパークへの興味」、「イベントへの興味」、「その他（何かあるのかわりたかった、近くにいてなんとなく等）」となっています。

また、「横浜みなと博物館は休館中ですが、リニューアルオープン後は来場したいですか」という質問には、「また来たい」、「機会があればまた来たい」が 112 人 88.2%と、高い興味をもっていただいていることが分かりました。

お客様の期待に応えるべく、リニューアルされる横浜みなと博物館をはじめ、帆船日本丸と柳原良平アートミュージアムの活用等も含め、より一層の魅力づくりに取り組んでいきます。

ウ 総合満足度（カッコ内は2年度数値）

満足・やや満足の合計 126 人 99.2%（291 人 99.7%）の評価をいただきました。引き続き、目的意識を持って、お客様満足度の維持・向上を目指していきます。



8 事業一覧表

【帆船日本丸事業】	
帆船日本丸公開	船内を年間 283 日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 ・月曜日（祝日に当たる時は公開、翌日が休館日） ・年末年始（12月29日～1月3日） ・船体整備（1月28日～2月25日）
展帆（8回） 延べ 439 人のボランティア が参加	5月5日（こどもの日）、7月22日（海の日）、7月23日（スポーツの日）、10月10日（日）、10月18日（月・撮影）、10月24日（日）、11月3日（文化の日）、11月21日（日） ※11月21日は総帆展帆。その他は部分展帆 ※10月18日は博物館展示物製作（撮影）のための総帆展帆
親子展帆	実施せず
満船飾（14回） 国民の祝日等に実施	5月3日（憲法記念日）、5月4日（みどりの日）、5月5日（こどもの日）、6月2日（開港記念日）、7月22日（海の日）、7月23日（スポーツの日）、9月15日（重要文化財指定記念日）、9月20日（敬老の日）、9月22日（秋分の日）、11月3日（文化の日）、11月23日（勤労感謝の日）、1月10日（成人の日）、1月27日（進水記念日）、3月21日（春分の日） ※4月29日（昭和の日）は雨天のため実施せず 8月8日（山の日）は荒天のため船飾を実施 2月23日（天皇誕生日）は船体整備期間のため実施せず
海洋教室	半日・1日コース合計19回 参加者 730 人 ・半日コース：10月27日59人、11月6日50人、11月17日71人（2回実施）、11月24日45人、11月26日41人 ・1日コース：4月5日14人、4月16日38人、6月9日40人、6月10日39人、6月19日12人、6月24日30人、6月25日34人、7月9日38人、10月2日50人、10月3日50人、11月9日33人、11月16日33人、11月18日53人
教育普及事業	実施回数 1 回、参加者12人 11月7日、船長講座『トールシップの帆装艀装③ジガーマスト (Jigger Mast) の構造』を実施
総帆展帆協力者登録数	2,319 人 総帆展帆協力者として登録されている市民ボランティア ※新規展帆ボランティア養成訓練（8人参加）：4月期4回実施
日本丸船内ガイド登録数	42人 日本丸船内のガイドとして登録されている市民ボランティア
甲板清掃ボランティア等	72日の作業日に延べ207人のボランティアが真ちゅう磨きなどの整備作業を実施
その他	・墜落制止用器具取扱い研修（座学及び実技） 8回実施、延べ183人参加 ・横浜市消防局西消防署による視察 9月22日、重要文化財帆船日本丸の消防設備等管理状況確認

【横浜みなと博物館事業】	
常設展示事業 4月～3月	年間58日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 月曜日（祝日に当たる時は公開、翌日が休館日） ※ リニューアル工事実施のため、6月7日より休館
展示案内 4月～3月	展示案内ボランティア（登録ボランティア36人）による常設展示の説明は中止
特別展示事業	<p>1 海洋立国推進功労者内閣総理大臣表彰受賞記念・帆船日本丸進水91周年記念企画展「日本の練習船～海の上の学校」 会期：令和3年2月27日～5月9日 1,732人（4月1日～5月9日）</p> <p>2 祝 帆船日本丸進水92年 なつかしポスター展示 会期：1月23日～27日 865人 ※ロビーで実施</p> <p>※ 令和3年夏開催予定の「港と船の所蔵品展」（仮称）は、リニューアル工事実施のため中止</p>
柳原良平アートミュージアム事業	<p>1 特集展示「帆船日本丸」 会期：令和2年12月22日～5月9日 3,472人（4月1日～5月9日）※会期延長</p> <p>2 柳原良平生誕90周年記念展示「柳原良平半生記」 会期：4月29日～6月6日 4,078人 ※博物館中1階新着資料コーナーにて開催</p> <p>※ 令和3年夏開催予定のオープン3周年記念特集展示「花と木と船と」（仮称）は、リニューアル工事実施のため中止</p>
調査・研究・収集・出版活動事業	<p>1 資料調査・研究等事業 横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、保存を行い、その成果を公開及び展示・教育活動に反映 資料整理のデータベース化を推進 ・寄贈13,960点、購入4点、採集961点 ・収蔵庫・書庫燻蒸（2月10日～19日） ・新型コロナウイルスワクチン接種会場（新港ふ頭客船ターミナル）や桜木町駅及び新港ふ頭近辺東京オリンピック装飾等の撮影 72回</p> <p>2 出版活動 企画展「日本の練習船～海の上の学校」展示資料データ等をWebサイトに掲載（継続） 令和4年度発行予定の博物館ニュース制作準備</p> <p>3 資料貸出・レファレンス 資料の貸出・閲覧、写真撮影のほか、レファレンスサービスを実施 ・資料（画像）貸出：（一財）産業遺産国民会議、横浜港埠頭株式会社など18件40点 ・資料特別利用：個人2件12点 ・資料貸出：フェルケール博物館、旭区民文化センターの2件、62点</p>

ライブラリー事業	<p>横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理・公開し、小学生から専門家に学習・研究の場を提供 データベース化の蔵書情報はWebサイトで公開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 公開日・公開時間 常設展示事業と同様 ※ リニューアル工事实施に伴い、6月7日より閉室 2 利用方法（料金等） 博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのみ利用は1人100円。コピーサービス（有料）のほか、レファレンスサービスを実施 3 収集・整理 横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集（購入29冊・寄贈272冊・その他94冊）・整理して配架 図書のデータベース化（約28,045冊）を進めるとともに、保守点検、データの整理等を行い良好な状態を維持 蔵書点検及び図書清掃作業を12月に4日間かけて実施
施設外部貸出	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別展示室 利用なし 2 常設展示室1階展示スペース アートスペース「と」関内 計1件(令和2年度より継続)
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1 活動休止中のボランティアへ博物館の活動を知らせる文書を5回送付 2 財団スタッフ向け高潮・津波等の際の避難ルート確認訓練7回実施、29人参加 3 収蔵庫・書庫設置のハロンガス消火設備動作研修 財団スタッフ13人参加 4 トンガ海底火山噴火による津波注意報発令対応（資料避難準備）1回 5 大黒ふ頭に新たに設置した収蔵施設への資料等移動対応 2月22日～3月5日 6 日本丸附資料見学会 5月に4回実施、58人参加（文化庁、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、横浜市港湾局、財団職員等参加） 7 文化庁及び修復業者による日本丸附資料調査 2月22日 8 助成申請 3件 令和4年度企画展：みなとの博物館ネットワーク・フォーラム、一般財団法人山縣記念財団 移動博物館：公益財団法人アイネット地域振興財団

【みなとの賑わい創出事業】	
水辺の事業 シーカヤック教室 カヌーポロ教室	水辺の事業の柱として、水域及び自動車道側水域で、シーカヤック教室、カヌーポロ教室を開催。実施に当たっては感染防止対策を徹底するとともに、8月から1月の国の緊急事態宣言の間は両教室を中止 1 シーカヤック教室の通年開催 36回開催、262人参加、利用料金は前年度比約169% 2 カヌーポロ教室の開催(4月~10月) 10回の開催、延べ123人参加
パーク利用事業イベント	1 コーリムジカ・MAKAI InaluFES・島村楽器などの音楽イベント(貸出)、カフラホア事務局「Aloha♡HULA」(貸出)、中小企業の情報発信を行っているスマートニッチ応援団による「さかな文化祭」「モノづくりキッズパーク」 2 Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021(横浜アーツフェスティバル実行委員会)「横浜ダンスパラダイス」 3 横浜みなとみらい21関係イベント 「自動車道における生物調査(アマモ観察)」
ミュージアム・ショップ事業	1 帆船日本丸、横浜みなと博物館、柳原良平アートミュージアム及び横浜にちなむ商品を販売 2 横浜みなと博物館のリニューアル工事により、従来の場所での営業が出来ないため、総合受付横に仮設店舗を設け、規模を縮小し、営業 3 来館できないお客様にも商品を購入していただけるようオンラインショップを開設
【緑地管理・活用及び研修施設事業】	
緑地の維持管理・活用	パーク来場者及び地区来街者向けの景観向上、賑わいの創出 1 緑地 博物館屋上は幼児から高齢の方までが憩える場所として緑地を管理 2 撮影 TVドラマ、映画、CM、雑誌など利用件数116件  直営作業による花壇づくり
グリーンボランティア	近隣地域住民を中心として日本丸メモリアルパークの緑花整備に理解ある協力者12人(登録者数)が、年間を通じて緑化のボランティア活動を実施 1 活動日(毎月第1・第3土曜日午前中) 2 主な活動内容 (1) カラスやトンビなどからの危害防止及び害虫駆除 (2) 花壇・プランターの植栽手入れ (3) 横浜みなと博物館屋上芝生の手入れ 3 その他の活動 水域を含むパーク内及び周辺歩道の清掃、さくら通り歩道上「まちかど花壇」緑花維持管理作業

<p>研修施設(訓練センター)の管理運営</p>	<p>1 貸出期間 12月29日～1月3日、2月24日～18日及び休館日を除く全期間 ※設備点検のため部分的に貸出不可日あり</p> <p>2 Webサイトによる予約受付及びシステムの改良</p> <p>3 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策</p> <p>(1) アルコール消毒液、サーキュレーター等の備品を配備</p> <p>(2) 会議室毎に1日当たり1回の貸出を実施</p>
<p>【集客増に向けた重点取組】</p>	
<p>マーケット別取組強化</p>	<p>1 法人マーケット(B2B・B2B2C)への取組</p> <p>(1) 教育旅行マーケットへの取組</p> <p>ア (公財)日本修学旅行協会との連携強化による同マーケットへの認知度向上、誘客促進</p> <p>来校数204校(74校増)</p> <p>(イ)『月刊教育旅行』へ修学旅行誘致のための寄稿及び広告を毎月掲載</p> <p>(ロ)同協会とのマーケティング会議2回実施</p> <p>(ハ)JTB横浜支店の教育プログラムへの参画</p> <p>「横浜SDGs探究学習」への取組み開始</p> <p>(2) 企業・団体等法人マーケットへの取組</p> <p>ア JCDとの連携</p> <p>JCDとの協働によるリーダーシッププログラム策定着手</p> <p>イ 旅行会社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光需要喚起策「Find Your YOKOHAMA キャンペーン」(YCVB主管)の実施に伴い取扱旅行会社への企画4プランへ参画 集客人数503人(245人増)・売上金額501千円(319千円増) ・JTB団体用企画商品「JTBならではの」へ継続参加 ・JTB日本の旬(団体向け)へコンテンツ提供し、2プラン参画決定及び次年度追加プラン検討 <p>ウ その他企業・団体等</p> <p>海洋都市横浜うみ協議会主催のバーチャうみ海博へオンラインコンテンツとしてクイズ「日本丸のコレなんだ？」を出展</p> <p>2 個人マーケットへの取組</p> <p>(1) オンライン販売チャンネルへの新規取組</p> <p>アソビュー社等3社と取扱継続するとともに、シーカヤックの販売を開始</p> <p>3社合計385枚、456千円(408枚減、143千円増)を販売</p> <p>(2) リアル販売チャンネルへの取組</p> <p>ア 旅行会社</p> <p>JTBの個人向け商品「エンジョイ東京 横浜」へ初めて展開</p> <p>イ 法人と連携した個人向け割引入館</p> <p>11法人・団体及び交通系10種と継続実施</p> <p>利用人数200人(142人減)・金額61千円(1千円減)</p> <p>ウ ぐるっとパスへの参画</p> <p>広告の掲出及びパスの販売及び利用受入を実施</p>

	<p>販売冊数 11 冊（増減なし）・利用枚数 720 枚（258 枚増）</p> <p>(3) 外国人マーケットへの取組 新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、ほぼ全てのプロモーション施策を中止する中、YCVB海外観光レップとの連携による中国（Weibo）へ投稿 年間入館者 561 人（63 人増）</p>
広報・宣伝への取組	<p>1 メディアへの取組 メディアメイン22社へニュースソース配信（154件）</p> <p>2 プロモーションを主体とした取組</p> <p>(1) JCDとのタイアッププロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSのインフルエンサーへ依頼し、当財団の取組を Instagram で発信 ・当財団職員を対象に Instagram の勉強会を初めて開催 ・初めてプロモーション用の撮影を実施するとともに、帆船日本丸の総帆展帆の写真など広報用の写真や動画を制作 <p>(2) 観光情報サイト、地域誌の活用 横浜観光情報、MinatoMirai21、ヨコハマ経済新聞、タウンニュース、るるぶ横浜等に掲載</p> <p>(3) プロモーション素材の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜ロイヤルパークホテル及びムサ・ジャパンと連携し、ホテルのロスフラワーを活用したフラワースポットを初めて帆船日本丸の船内に設置 ・撮影スポットとして周知、及び Instagram 紹介 <p>(4) こども向け情報発信用素材の提供 青葉区役所の子育て応援系 YouTube「なしかちゃんねる」での特集第4弾「保育士めがおに先生が行く！日本丸編！」の制作に全面協力</p> <p>(5) オンラインツアーへの参加 H I S と YMM との企画による第 1 回オンラインツアーに参加（304 人参加）</p>
入館料金の柔軟な対応	<p>単館券及び小中高校生土曜特別料金設定の継続実施</p> <p>1 単館券入館者数 19,913 人（9,695 人増） ＊博物館のリニューアル工事のため、開館が帆船日本丸のみで共通券の販売が出来ず、単館券のみの販売</p> <p>2 小中高校生土曜特別料金の入館者数 1,142 人（570 人増） ＊3月19日に開催された「さかな文化祭」で小中高校生が、当日1日のみで346人入館</p>
インターネット等の活用	<p>従来の紙媒体から、より多くの人へ、かつ迅速に情報を提供できる SNS を有効活用し、情報を発信 例えば、展帆や帆船日本丸船内風景などについて Instagram と Facebook を活用して情報発信し、誘客を推進</p>

【組織運営の質的向上に向けた取組】

各種研修会の実施及び参加実績

主催部分の財：財団、他：市又は団体

月 日	研 修 名	参加者数	主催
4月1日	新採用職員研修	5人	財
4月10日 11日 24日 25日	新規展帆ボランティア養成訓練	8人	財
4月28日	博物館用ハロン消火設備動作研修	13人	財
5月8日 9日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（学科）	50人	財
5月9日 15日 23日 30日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（実技）	88人	財
5月20日	情報セキュリティ及び個人情報保護の職員研修	18人	財
6月1日 13日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（実技）	15人	財
6月3日	公開承認施設担当者会議	2人	他
6月4日	重要文化財防災防犯研修	1人	他
6月16日	新採用職員研修	1人	財
7月12日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（実技）	1人	財
7月12日	高所作業者救助訓練	9人	財
7月16日	横浜みなと塾	3人	他
7月20日	新規格墜落制止用器具導入に係る講習	7人	他
8月2日	安全衛生講習会	10人	財
10月4日	心のバリアフリー推進員養成研修	1人	他
10月6日	おもてなしセミナー	1人	他
10月6日	みなとみらい21地区情報受伝達訓練	3人	他
10月23日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（実技）	9人	財
10月27日 10月29日	秋の防災訓練	27人	財
10月31日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（学科）	11人	財
11月7日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（実技）	8人	財
11月12日	港湾局人権啓発研修（と場）	1人	他
11月17日	港湾局人権啓発研修（障害とは何か）	1人	他
11月30日	港湾局人権啓発研修（セクシャルマイノリティ）	1人	他
12月7日	心のバリアフリー推進員養成研修	1人	他
1月13日 ～30日	人権啓発研修	39人	財
1月23日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育（実技）	1人	財

1月26日	文化財防火デー防災訓練	25人	財
2月10日	文化財活用セミナー	3人	他
2月19日 24日	個人情報保護に関する研修	30人	財
2月19日	人権啓発研修	11人	財
3月2日 3月4日	個人情報保護に関する研修	17人	財
3月8日	石綿障害予防規則への対応説明会（船舶関係者）	1人	他
3月31日	日本博物館協会公開シンポジウム（これからの博物館防災を考える）	1人	他